

必死の安否確認続く 気仙沼、南三陸 ライフライン確保は難航 東北地方太平洋沖地震津波 全国から支援部隊到着 懸命の救助活動

11日午後2時46分ごろに発生した東北地方太平洋沖地震津波で壊滅的被害を受けた気仙沼市。県外の消防や警察、自衛隊なども加わり懸命な救助活動や情報収集が続いている。大勢の人が身を寄せている小中高校や公民館などの避難所では、食料や水が不足しているほか、入りきれない人は屋外で過ごしている。市民生活ではガソリンなども不足し始めた。未だ相当数の人の行方が分かっておらず、肉親を探す人が病院や避難所を訪れては、関係者に安否の手がかりを求めている。

鹿折地区では11日に発生した火災が、依然としてくすぶり続けており、地域全体が煙に包まれている。鹿折川には河口から500mの付近に近海マグロはえ縄船が堤防に乗り上げたり、中型の漁船が転覆し船底をさらしたりしている。

鹿折中学校は避難してきた近くの老人施設、近所の人たちであふれた。老人施設の職員らは、入所者に声を掛けながら時折、笑顔で接し、勇気づけている。肉親の安否を確認に来る人たちが絶えない。

市内各地では、がれきを片付ける作業が始まった。動かせる重機を使って業者や個人での作業が続いており、少しずつだが通行ができるようになってきた。量販店には食料品や生活用品を買い求める市民が列をなした。

南三陸町では町民約1万8千人のうち、1万人と連絡がとれていない。町では町総合体育館内に対策本部を設け、救出方法などの対応を協議している。

中学校の校庭で2晩たき火で暖をとってしのいだという50代の男性は「家は流された。教室も体育館もいっぱい。きのう(12日)支給されたのはおにぎり一つ。仕方ありません。テントや仮設住宅はまだまだ先だと思う。長期戦を覚悟しています」と話している。

ライフラインは、水道が2カ所ある浄水場のうち稼働しているのは新月浄水場のみで、館山浄水場は電力がないためポンプアップできず、稼働していない。電力は1千本の電線が切断したりして損傷。松岩変電所の鉄塔も1本倒れ、東北電力で復旧作業を急いでいるが、復旧の見通しは立っていない。市民生活ではガソリンや灯油なども不足し始めている。

おことわり：東北地方太平洋沖地震津波後、12、13日と特別号を発行しましたが、14日以降、ライフライン復旧まで休刊いたします。ご了承ください。

三 陸 新 報 社

みんなでがんばろう